

令和元年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和2年5月25日
学校法人大利根学園
大利根ふじこども園

1. 本園の教育目標

子どもひとりひとりを大切にし、豊かな子どもの育成を目指し、「やさしく たくましく げんきなこども」を教育・保育の目標として、次の3項目と6つの目指す幼児像を掲げる。

- みんなかよく・・・思いやり
 - ・約束を守り、仲良く遊ぶ子
 - ・人の痛みのわかる、思いやりのある子
- 自分のことは自分でできる・・・自立心
 - ・友達と遊び、健康でたくましい体をつくる子
 - ・人の話をよく聞き、自分の考えや思いを話すことができる子
- つよいからだとやりとげる心・・・生きる力
 - ・元気にあいさつができる子
 - ・生き生きといろいろなものに興味を持つ子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定されたことを踏まえて、こども園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解を図り、教育・保育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、こども園が今後担う役割について検討する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	こども園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解を図る。	A	園の教育理念・教育方針を年度当初に教職員全体で確認し、計画を立て日々の保育にあたっている。反省点は次に繋げていけるよう見直しや改善をおこないながら保育を進めていくようにしている。
2	教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	B	毎週木曜日に職員会議を開き、教育・保育課程における園行事の在り方や計画についてや園児について共通理解を図り、園全体で対応していくことで、教育・保育の質を高めている。
3	保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	A	一日保育体験や個人面談、保護者アンケート等を実施し、保護者からの意見を教職員間において共有化し、必要なものについては園の考え方を示し、改善できるところから取り組みを進めている。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	取り組むべき課題について教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価した上で、取り組み状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する基礎とすることができた。今後も自らの教育・保育を振り返り、さらに充実した保育実践ができるように努力を積み重ねていきたい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	安全・衛生管理	災害や不審者等の緊急事態発生に備えて、それらに対する対応が十分とはいえないので、危機管理マニュアル等を教職員間で共通理解し、意識の向上やマニュアルの改善を図っていきたい。
2	指導計画の編成	新教育・保育要領に基づいた指導計画・保育計画の作成のために、加筆・修正をさらに加え、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した、新たな指導計画・保育計画の編成に取り組んでいく。
3	保護者への対応	園児の様子を積極的に保護者に伝え、園児の情報について共通理解を図りながら保育に役立てるとともに、保護者への子育て支援を行う。保護者からの相談や意見等は、担任だけでなく職員間で共有し、園での対応方法を協議した上で、園での方針等を保護者に伝え理解を深めていく。

6. 学校関係者評価委員会（学校評議員）の評価

子どもたちがのびのびと生活してる様子がうかがえる。教育目標のもと、一人一人を大切にしているように思う。概ね良好な運営がなされている。引き続き、自己評価結果を生かし、よりよい保育運営をしていただきたい。

※ 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校関係評価委員会は開催せずに、学校関係者評価委員へは、個別に資料をもとに説明をし評価いただくかたちとなった。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。